



アイス

フィールド・

パークウエー

険しい山々、数々の湖、

川、氷河を縫って続く道は、まさにその名にふさわしく、自然の雄大さを楽しませてくれる。ジャスパー、バンフ両国立公園の境界にあるサンワブタ峠は、標高二千メートル余。ここのキャンプ場は、規模が小さく、料理場とトイレしかない。アサバスカ氷河の上をおそるおそる歩いて、ポツカリ空いたコバルトブルーのクレバスを覗いたりしてから、テント場へ着く。雪上車で氷河見物も可能だ。テント場では、早々とウイスキー・ジャックの異名をもつ鳥や地リス、マーモットたちの歓迎だ。

カルガリーからはるばる

自転車であつたのだという青年は、木陰で読書をしている。午後四時、まだ陽はか

なり高いので、裏山へ登って

みることにした。ここから眺めるアサバスカ氷河は

抜群だ。記念にと、マウン

テン・ゴートの糞を拾っている者もいる。カナダのグラウス(雷鳥)は、日本とはいささか形態が異なっているようだった。広大なメドウから見下ろすと、はるかかなたの道路を豆つぶのように車が往き交っていた。

レイク・ルイーズから

バンフのキャンプ場へ

期待していたビッグホーン・シープやムースは見当らなかつたが、時折り岩から岩へ軽々と跳躍するマウンテン・ゴートが目にとまった。やがてロックキーの真珠レイク・ルイーズに到着。

さすが世界の観光地だけあって、駐車場もいっぱい。ホテルの花園には、色とりどりの花が咲き揃い、まさに楽園だった。紺碧の空を背景に、ビクトリア氷河が湖面にその雄姿を映す。早朝には、湖畔の道を、サイクリングやジョギングにひと汗流す姿も見られるはずだ。

バンフの町を通過して、高台にあるトンネル・マウンテン・キャンプ場へ。ワピティ同様、諸設備が完備している。グラウンドが固いので、テントを草地に移動したら、所定の位置に戻すよう警告され、恥かしい思いをした。

こうしてロッキーマウンテンでの二週間近くのキャンプ生活は終わり、さまざまな思い出を胸に、バンクーバー行き列車の客となった。

	夏	カ
	の	ナ
旅	ダ	行

カナダの夏は、厳しい冬と打って変わったように温暖。プリティ

ツシュ・コロンビアは十五、六度から二十四・五度としのぎやすく、トロントやケベックではマイアミより暑くなることがあるほど。北方でさえ、期間

は短い。この快適なシーズンに、多くのカナダ人は長い休暇をとる。そしてキャンプにでかけたり、湖のほとりの山荘でくつろぐ。

トロントなどの大都市では、人口が半減するほどだ。

夏はまた祭りといベントの季節でもある。夏のイベントは野外で開かれることが多く、人々は北国独特の長い夏の夜をさむいとおしそくに遅くまで楽しむ。数ある夏のイベントのうち、いくつかを紹介します。

◎北米最大の野外ショー、カルガリー・スタンピード(アルバータ州カルガリー)

毎年七月、十日間にわたって開かれる西部の祭り。幌馬車競争、荒馬乗り、荒牛乗りなどの競技のほか、カウボーイやカウガール、インディアンによる壮大なパレード、バンド、

スポーツとイベントの季節

競馬、花火、サーカス、展示会などがある。◎ゴールドラッシュの昔をしのぶクロナダイク・デーズ(アルバータ州エドモントン)

七月末ともなれば、街中がゴールドラッシュで賑わった十九世紀に様変わりする。市民は当時の派手な衣装を身にまとい、正午にはパレードのバンドや馬車の行進が街を行く。路上ダンス、砂金とりコンテスト、いかだ乗リレースなどが見物。

◎路上がステージになるモントリオール・ジャズ・フェスティバル(モントリオール)

毎年八百人をこえるミュージシャンが世界中から集まって、連日、朝から晩までのジャズ演奏を楽しむ。

野外コンサートあり、屋内コンサートあり。ディキシーランド、ブルース、レゲエ、ジャズ、ロックと、集まる人の多様さと同じく、ありとあらゆる種類のジャズが聴ける。六月末から七月始め。

◎シャロットタウン・サマー・フェスティバル(プリンス・エドワード・アイランド州シャロットタウン)

六月中旬から八月末にかけて、コンファエレーション・センターでの「赤毛のアン」ミュージカルを中心に、市内の多くの劇場で、連日、劇やショーがくり広げられる。博物館や記念館、美術館も、一斉に催しを企画する。